



# ESDとユネスコスクール

— 全13課程の Q & A —

(ユネスコ協会会員用)

## Education for Sustainable Development

広島ユネスコ協会

2015年9月

## この冊子の趣旨

広島ユネスコ協会は、「ESD・ユネスコスクールの推進に努める」を、今年度も三大重点方針の一つに掲げています。一方、ユネスコは、国連決議による「国連ESDの10年(2005～14)」の主導機関として、ESDやユネスコスクールの推進に力を注いできました。また、ユネスコは、昨年11月、「国連ESDの10年」の節目に、名古屋で開催した「ESDユネスコ世界会議」において、2015年から向こう5年間を目標に、「ESDグローバル行動計画」(GAP)を発表し、すべての教育・学習の機会をとらえて、ESDの推進に一段と力を入れることを宣言しました。

広島ユネスコ協会は、これまでも広報部会が中心となり会誌『ヒロシマ ユネスコ』で、折々に関連情報を会員に提供してきました。また、2015年7月に開催の理事会でも、ESD・ユネスコスクールの推進の取り組みが議論されました。その中で、これまでまとまった学習用テキストや研修会を持ったことはなかったことが指摘されました。

そこで、理事会での議論を踏まえ、ESDやユネスコスクールに関する活動に関し、ユネスコ活動の立場から、分かりやすいQ&A方式の冊子を作成してみました。本冊子が、今後の会員皆様のESD・ユネスコスクール推進活動へのご理解に、少しでもお役に立てれば幸いです。

編著 中山修一

## 全13課程の構成(もくじ)

課程		注目用語
1	Q 広島ユネスコ協会は、「ESD・ユネスコスクールの推進」を、なぜ、重点活動方針の一つに掲げているのでしょうか。	ESD、ユネスコスクール、ユネスコ共同学校、ユネスコスクール公式ウェブサイト、ユネスコの理想、地域ユネスコ協会、日本ユネスコ国内委員会、国連ESDの10年、ESDの推進拠点、広島市教育振興基本計画
2	Q 広島ユネスコ協会が、ユネスコの活動に協力する根拠は、何でしょうか。	ユネスコ活動に関する法律、日本ユネスコ協会連盟、日本ユネスコ国内委員会、ユネスコ運動全国大会
3	Q 広島ユネスコ協会は、ESD・ユネスコスクールの推進のために、どのような協力をしているのでしょうか。	日本ユネスコ協会連盟、書き損じはがきプロジェクト、世界寺子屋運動、広島ユネスコ活動奨励賞、新春フェスタ、ユネスコスクール認定校、ユネスコスクール・ネームプレート、広島ESD・ユネスコスクール研究会、広島県ユネスコ連絡協議会、広島県ユネスコES

		D大賞
4	Q ESD（持続可能な開発のための教育）の特色は、どのように理解すればよいのでしょうか。	国連ESDの10年、ESDに関するユネスコ世界会議、あいち・なごや宣言、GAP
5	Q ESDの推進拠点と定義される「ユネスコスクールの推進に協力する」とは、何をすればよいのでしょうか。	ユネスコスクール、ESDに関するユネスコ世界会議、広島ESD・ユネスコスクール研究会
6	Q ユネスコスクールの認定を申請するには、どのような手続きが必要でしょうか。申請後、結果が届くまでに、どのくらい時間がかかるのでしょうか。	ユネスコスクール、教育委員会、ユネスコ・アジア文化センター、ユネスコスクール公式ウェブサイト、日本ユネスコ国内委員会、三菱東京UFJ銀行、日本ユネスコ協会連盟
7	Q 文部科学省は、なぜ、ユネスコスクールを、ESDの推進拠点と位置づけたのでしょうか。	ユネスコスクール、ユネスコ協同学校、国際理解教育、開発教育、環境教育、ESDの推進拠点、学習指導要領改訂版、
8	Q ユネスコスクールが、学校を挙げて取り組むべき実践とは、どんなことでしょうか。	ESDに関するユネスコ世界会議、ユネスコスクール世界大会、ユネスコスクール宣言、日本のユネスコスクール：私たちのコミットメント（誓い）
9	Q ユネスコスクール宣言の誓い⑦項にある「ESDに関するグローバルアクションプログラム（GAP）」の5つの優先行動分野とは、どんな分野でしょうか。	ESDに関するグローバルアクションプログラム、GAP (Global Action Program)
10	Q 「持続可能性の概念をとり入れる」とは、具体的には、どのようなことでしょうか。	持続可能性、価値観や行動のパターン、パラダイムシフト、未来社会、平和で持続可能な社会
11	Q ESDを推進し、平和で持続可能な社会を創るために、国際社会には、具体的な目標が提示されているのでしょうか。	国連ESDの10年国際実施計画、ミレニアム開発目標（MDGs）、持続可能な開発目標（SDGs）
12	Q 「持続可能な社会の構築」は、いつになれば、完成段階に至るのでしょうか。	持続可能な社会、技術革新、民主主義、ユネスコの理想、人の心の中に平和の砦を築く
13	Q ESDやユネスコスクールの推進に関わる代表的な公的機関の役割分担は、どのようになっているのでしょうか。	ユネスコ（国際機関）、日本ユネスコ国内委員会（政府）、県市教委（行政）、日本ユネスコ協会連盟（公益社団法人）、地域ユネスコ協会（市民団体）、ASPUnivNet（大学）、ユネスコスクール（学校）、広島県ユネスコスクール連絡協議会（学校）、広島県ユネスコ連絡協議会（地域ユネスコ協会）、広島ESD・ユネスコスクール研究会

## 第1課程

広島ユネスコ協会は、「ESD・ユネスコスクールの推進」を、なぜ、重点活動方針の一つに掲げているのでしょうか。

- ① ESD（持続可能な開発のための教育）が、2005年からユネスコが推進する世界的な教育革新事業の一つであり、ユネスコスクールは、1953年からユネスコ本部が推進する世界水準のユネスコの理想を実現するためのモデル校事業だからです。なお、日本では、1954年に中学校4校、高校2校の加盟でスタートしましたが、半世紀にわたり、「ユネスコ協同学校」と呼んできました。2008年度から国は、「ユネスコスクール」と改称し、ESDの推進拠点と位置付けて、加盟校の増加と質の向上の教育政策が始まりました。
- ② 広島ユネスコ協会は、地域ユネスコ協会の一員として、ユネスコや日本ユネスコ国内委員会が推進する事業に協力することを、その設立の基盤にしています。
- ③ ESDは、国連決議（2002年）により、2005年から始まった「国連ESDの10年」を受けて、ユネスコが世界の主導機関として推進してきました。
- ④ ESDは、「持続可能な開発のための教育」が正式の訳です。ただ、広島市教育振興基本計画（2010）のように「平和で持続可能な社会の創造」と訳すこともあります。
- ⑤ ユネスコスクールのことを、日本の「ユネスコスクール公式ウェブサイト」では、「ユネスコの理想を実現する学校」と定義しています。
- ⑥ 文部科学省は、ユネスコスクールを、「ESDの推進拠点」と定義します。この定義は、日本独自のものです。2008年に文科省が制定した、我が国初の「教育振興基本計画」で、初めて使われました。それ以降、文科省の教育政策の柱の一つになっています。

## 第2課程

広島ユネスコ協会が、ユネスコの活動に協力する根拠は、何でしょうか。

- ① その根拠は、戦後、ユネスコの発足を受けて日本でいち早く制定された「ユネスコ活動に関する法律」（1952年制定）の第3条にあります。
- ② 第3条は、「わが国におけるユネスコ活動は、ユネスコ、国際連合及びその専門機関、ユネスコ活動に関係のある国際団体並びに諸国の政府、ユネスコ国内委員会及びユネスコ活動に関係のある団体等と協力しつつ展開されなければならない。」とあります。
- ③ 第3条を根拠に設立されている広島ユネスコ協会が、「ESD・ユネスコスクールの普及」に協力するのは、会則の第4条が規定する本会の行う「事業」の第4項「日本ユネスコ国内委員会と密接なつながりを持ち、日本ユネスコ協会連盟の事業に協力する」に依拠します。
- ④ ESD並びにユネスコスクールの推進は、私たち地域ユネスコ協会を束ねる日本ユネス

コ協会連盟の重点事業の一つです。ちなみに、2015年の同連盟主催の「第71回 ユネスコ運動全国大会 in 和歌山（6月）」の開催テーマは、「持続可能な平和のための！」～"会話"を広げるユネスコ～」でした。このテーマは、ESDの推進に由来しています。

### 第3課程

広島ユネスコ協会は、ESD・ユネスコスクールの推進のために、どのような協力をしているのでしょうか。

- ① 日本ユネスコ協会連盟（日ユ協）が進める「書き損じはがきプロジェクト」に、以前から協力しています。このプロジェクトは、日ユ協がユネスコの「万人のための教育」運動に協力するために、1995年から始めた世界寺子屋運動の財源に当てられています。2005年から始まったESDの目標の一つである非識字者削減という目標に合致しますので、日ユ協もESDの推進事業の一つととらえています。11枚の書き損じはがきが、途上国に展開する世界寺子屋運動の学校で、一人の生徒が1か月勉強できる経費に当てられています。
- ② 本協会の代表的な行事である新春フェスタに参加することで、ESDの推進に寄与されています。今年で18回目となる広島ユネスコ活動奨励賞事業では、募集対象の「活動内容」7項目の一つに「人類が直面している環境や貧困などの地球的課題に取り組む活動」を挙げており、ESDの推進にも協力しています。
- ③ 2013年度より、ユネスコスクール認定校へのユネスコスクール・ネームプレート（表札）を、日本ユネスコ協会連盟の依頼を受けて、本協会会長が認定校を訪ね全校児童生徒の集まりで贈呈しています。会長が祝辞を述べると同時に教育部会長が、ユネスコスクール認定の意義について、全校生徒さんに講話をしています。
- ④ 会員により、周りの人々に、本協会がESDやユネスコスクールを支援していることが、口コミで徐々に広がっています。
- ⑤ 2年前から、広島市教育委員会からの依頼を受けて、市内の学校が、ユネスコスクールに認定申請書を提出する際の英訳作業をお手伝いしています。ユネスコスクールの認定を受けるためには、日本語と英語の申請書を、市町教育委員会を窓口広島県教育委員会経由で、文科省日本ユネスコ国内委員会に提出することになっています。この協力は、今後も市教委からの要請に応じて続けられる予定です。
- ⑥ 2013年に広島県ユネスコ連絡協議会が設立した広島ESD・ユネスコスクール研究会の代表、副代表、事務局長は、それぞれ本協会の会員が協力しています。この研究会は、会費無料でメール登録すれば、年4回の研究会の案内や、各種の関連情報を受け取ることができる市民開放型の研究会です。現在の会員は、本協会会員をはじめ、現職の教員や管理職の方々、研究者などで、登録会員は90人弱です。

- ⑦ 2014年に始まった広島県ユネスコ連絡協議会主催の第1回広島県ユネスコESD大賞は、ESDやユネスコスクールの好事例の学校や民間団体を表彰しました。この事業は、広島ユネスコ協会会員の全面的な協力があって、初めて実現できたものです。また、この事業は、広島県共同募金会から助成を受けましたが、広島ユ協会員が、赤い羽根共同募金に協力することで、間接的に優れたESDの取り組みを行う学校や社会団体を支援する大賞事業の実現につながっています。
- ⑧ 本協会は、今年度、ホームページ上に、「ESD・ユネスコスクールお問い合わせ窓口」を設けました。教育部会の河原理事が窓口となって、メールにより相談を受け、メールで回答する事業を始めました。
- ⑨ このように広島ユネスコ協会の会員が関わるESD・ユネスコスクール推進への支援は、着実に広がり充実しています。そして、それらの事業に参加することが、本協会の会員として、ESD・ユネスコスクールの推進に協力していることになるのです。

#### 第4課程

ESD（持続可能な開発のための教育）の特色は、どのように理解すればよいのでしょうか。

- 我が国でESDとは何かについて学ぼうとするとき、その基本的資料は、国連持続可能な開発のための教育の10年関係省庁連絡会議が、2008年に制定し、2013年に改訂した『我が国における国連持続可能な開発の10年実施計画（ESD実施計画）』があります。それによると、ESDとは次のとおり説明されています。「持続可能な開発は、私たち一人ひとりが、日常生活や経済活動の場で、意識し、行動しなければ実現しません。まず、私たち一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革することが必要であり、そのための教育がESDです。」この説明から分かる通り、ESDは、なにも学校教育に限られるものではありません。「私たち一人ひとりが、日常生活や経済活動の場で、意識し、行動しなければ実現しません」とあるように、生涯学習の大きなテーマでもあるのです。
- ESDの目標について「ESD実施計画」は、次の通り述べています。「すべての人が質の高い教育の恩恵を享受し、また、持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれ、環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすことであり、その結果として持続可能な社会への変革を実現することです。」
- 「ESD実施計画」が、2008年に制定され、2013年に改訂されたのは、なぜでしょうか。日本で2008年策定されたのは、ユネスコが2005年に策定した「国連持続可能な開発のための教育の10年（2005～14）国際実施計画」が、世界のユネスコ加盟国に、それぞれの国内版を策定するよう推奨していたからです。また、2013年に改訂版を策定し

たのは、5年後に見直すと規定していたからです。

- ユネスコは、「国連E S Dの10年（2005～14）」の最終年に当たる2014年秋に、文部科学省と共催で、名古屋市で「E S Dに関するユネスコ世界会議」を開催（11月10～12日）し、「あいち・なごや宣言」を採択しました。この宣言は、今後、E S Dの世界的普及強化に資するために、要点をまとめています。これを見ることで、ユネスコが世界に呼び掛けるE S D推進の特色がよく分かります。

「あいち・なごや宣言（文科省仮訳）」の全文は、次のウェブサイトで公開されています。  
[http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya\\_Declaration\\_ja.pdf](http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/pdf/Aichi-Nagoya_Declaration_ja.pdf)（2015年7月10日閲覧）

- 「あいち・なごや宣言」は、18項目からなっています。そのうちE S D推進について大事な点を、次にまとめてみます。

① E S Dの目標にすべき資質や能力について、次のとおり記しています。「批判的思考、システム思考、分析的問題解決、創造性、協働、不確実なことに直面した際の決断、また、国際的な課題がつながっていることへの理解及びその自覚から生じる責任のような、地球市民そして地域の文脈における現在及び未来の課題に取り組むために必要な知識、スキル、態度、能力、価値を発達させることで、学習者自身及び学習者が暮らす社会を変容させる力を与えるE S Dの可能性を重要視する。」（第8項）

② E S Dの実践に当たって重視すべき領域や普遍的原則として、次のとおり明示しています。「E S Dの実践は、持続可能な開発への文化の貢献、平和の尊重、非暴力、文化多様性、地域と伝統的な知識、先住民の叡智と実践、さらに、人権、男女の平等、民主主義、社会正義のような普遍的原則の必要性と同様に、地元、国内、地域、世界の文脈を十分に考慮すべきである。」（第10項）

③ ユネスコ加盟国の政府に、次の更なる取り組みを求めています。（第15項）

a) 教育の目的、教育を支える価値をレビューし、教育政策とカリキュラムがどの程度E S Dのゴールを達成しているかを評価し、システム全体としての包括的アプローチ及びマルチステークホルダーの協力、教育セクター、民間企業、市民社会及び多様な持続可能な開発分野に従事する人々のパートナーシップに特別な注意を払いながら、教育、訓練、及び持続可能な開発政策へのE S Dの統合を強化し、教員や他の教育者の教育、訓練、職能開発が十分にE S Dを取り入れることを確保する。

b) 特にG A Pの五つの優先行動分野に沿った国内及びサブナショナルレベルのフォーマル及びノンフォーマルな教育・学習の両方に必要な機関の能力を構築するなど、政策を行動に移すために実質的な資源を配分、結集する。

## 第5 課程

E S Dの推進拠点と定義される「ユネスコスクールの推進に協力する」とは、何をすればよいのでしょうか。

- ① 身近に出会う地域のユネスコスクールになっていない学校の先生に、「ユネスコスクールの認定を受けて、世界水準の学校になってみては？」と声がけすることから始まりませう。ユネスコスクール認定校は、ユネスコにより、その教育目標と実践が、世界標準に到達していることを認められたこととなります。今、世界に約1万校のユネスコスクール認定校があります。国内では、939校（2015年6月現在）が認定されています。また、下村文部科学大臣は、今年度から向こう5年間で、日本で1万校のユネスコスクール認定を目標にすると、2014年11月に日本で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」で述べています。
- ② もし、関心を持たれる先生に出会ったら、広島県ユネスコ連絡協議会が設立した広島ESD・ユネスコスクール研究会への参加案内をしてください。会費は無料で、随時、研究会の案内や関連情報が、メールで届くことを伝えてください。この研究会は、年4~5回の公開研究例会を、広大附属高校で開催しており、ESDの実践に取り組む学校や民間団体、ユネスコスクールの実践に関する最新情報に出会うことができます。
- ③ もし、疑問を持たれている人々に出会ったら、広島ユネスコ協会のホームページに開設してある「ESD・ユネスコスクールに関するお問い合わせ窓口」にメールで、質問を送られることを薦めてください。分かり易い回答を得ることができるでしょう。

## 第6課程

ユネスコスクールの認定を申請するには、どのような手続きが必要でしょうか。申請後、結果が届くまでに、どのくらい時間がかかるのでしょうか。

- ① ユネスコスクールの認定を受けるには、まず、教育委員会のユネスコスクール担当者に相談することから始めます。
- ② 事前の準備としては、文科省がユネスコ・アジア文化センターに運営を委託している「ユネスコスクール公式ウェブサイト」で、「加盟申請方法」のページから申請の仕方を理解しておくスムーズに進みます。
- ③ 申請から認定証の受け取りまでは、およそ次の流れになります。公式ウェブサイトから申請書用紙を取得⇒英語の申請書を記入し、ウェブサイト内の事務局に提出⇒英語の申請書は、申請校に近いユネスコスクール大学間支援ネットワーク加盟大学に送られ、点検・修正⇒完成した英語版申請書は、日本語版と合わせ、所管の市町村教育委員会へ⇒所管の県教育委員会⇒文科省日本ユネスコ国内委員会⇒パリ・ユネスコ本部⇒審査⇒認定合格⇒認定証が文科省日本ユネスコ国内委員会⇒県教育委員会⇒市町教育委員会⇒認定証が学校へ届けられます。
- ④ ユネスコスクール・プレート（門表）は、別のルートで認定証からかなり遅れて学校に届きます。その流れは、次の通りです。 認定証をユネスコから受け取った文科省日本ユネスコ国内委員会⇒日本ユネスコ協会連盟に通知⇒三菱東京UFJ銀行に作成を依

頼⇒日本ユネスコ協会連盟にプレートを送付⇒認定を受けた近くにある地域ユネスコ協会に郵送⇒受け取ったユネスコ協会が学校に贈呈。

## 第7課程

文部科学省は、なぜ、ユネスコスクールを、ESDの推進拠点と位置づけたのでしょうか。

- ① ユネスコスクールは、新しい概念ではありません。そもそもユネスコスクールとは、ユネスコが発足（1946年）後、1953年にユネスコによるユネスコの理想を実現する学習開発をめざして始まった、ユネスコの根幹的教育開発事業です。
- ② この制度を日本では「ユネスコ協同学校」と呼んで、1956年から普及を始めました。当時、西日本では、広島大学附属高等学校が、東日本では、東京教育大学（現筑波大学）附属高等学校などが、先導的に授業モデルの開発をはじめました。その実験は、その後、日本で国際理解教育がはじまる礎石となる多大の成果を上げました。次第に参加校が増えたとはいえ、2007年までは、関西、関東を中心に20校前後で推移し、国際理解教育、開発教育、環境教育の質的向上に、大変な貢献をもたらしました。
- ③ なぜ、「ESDの推進拠点」と位置づけたのでしょうか。ESDは、学校教育では、2008年の学習指導要領改訂版から理科、社会科、家庭科、芸術科、保健体育科など多くの教科で、その概念の学習が盛り込まれました。つまり、学習指導要領に盛り込まれたESDを推進するには、モデル推進校が必要になりました。
- ④ ユネスコスクールが、ESDの推進拠点であることは、同時に、ESDの実践に関する研究も進め、その成果を国内外に、積極的に発信していくことも求められています。

## 第8課程

ユネスコスクールが、学校を挙げて取り組むべき実践とは、どんなことでしょうか。

- この質問への回答は、「国連ESDの10年」の最終年の総括をめぐって、岡山市で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」（2014年11月）の関連会議の一つ「ユネスコスクール世界大会」で採択された「ユネスコスクール宣言」を実践することにつきます。同宣言の中で、「私たちは、日本の教育を変えていく原動力としてESDをこれからも進めていきます。」と前置きし、次の8項目を「日本のユネスコスクール：私たちのコミットメント（誓い）」として掲げました。つまり、日本のユネスコスクールでは、これらの8項目が学校全体でよく理解され、各項目に関して少しでも学習効果を上げることに努めることを明言しています。
- 宣言の誓いの中で、これまでなかなか実践が難しかった誓い④、⑤、⑧に書かれている、

国内外との交流や海外への活動の発信が、今後の大きな課題になるでしょう。

- ① 私たちは、持続可能な未来のために、身近な地域に貢献するとともに、グローバルな視点に立って行動する次世代を育みます。
- ② 私たちは、平和、環境、気候変動、生物多様性、国際理解、多文化共生、エネルギー、人権、ジェンダー、防災、文化遺産、地域学習、持続可能な生産と消費等、学びの入り口やテーマが何であれ、その先に地域、国、アジア、世界の平和と持続可能性を見据えて、地域の人々をはじめ多くの人たちと協働しながら、つながりを意識した教育を実現します。
- ③ 私たちは、E S Dの本質を理解するとともに、E S Dの魅力を広く社会に伝えるため、児童生徒の変容、教師の変容、学校・地域の変容を明確に示します。
- ④ 私たちは、気候変動、生物多様性、防災、持続可能な生産と消費など、国境を越えたグローバルな課題について理解し、解決方法をさぐり、解決に向けてともに取り組んでいく国内外のユネスコスクール、特に近隣のアジア諸国のユネスコスクールとのテーマ学習・協働学習に取り組みます。
- ⑤ 私たちは、互いに学びあい、活動の質を高めていくために自発的に組織されるユネスコスクール同士の全国ネットワークをつくります。そして、ユネスコスクール間の交流や協働を推進し情報交換・活用の仕組みを充実させます。
- ⑥ 私たちは「変化の担い手」として子どもと教師を捉え、地域社会における持続可能性の実践者となるように努め、他の学校、社会教育・生涯学習機関、NGO/NPO、自治体など多様な主体とともに、持続可能な地域づくりに貢献します。
- ⑦ 私たちは、さまざまな主体との対話と連携を通して、「国連E S D の10年」の後継プログラムである「E S D に関するグローバルアクションプログラム (GAP)」の5つの優先行動分野をつないでいきます。
- ⑧ 私たちは、世界181の国にひろがるネットワークの一員として、E S Dに取り組み、持続可能な未来をともに築いていくことを、そしてそのために、さまざまな交流と連携の機会をつくって学びあうことを、日本と世界のユネスコスクールに対して呼びかけます。

## 第9 課程

ユネスコスクール宣言の誓いの⑦項にある「E S D に関するグローバルアクションプログラム (GAP)」の5つの優先行動分野とは、どんな分野でしょうか。

- 5つの優先行動分野を下にあげます。なかでも大事な点は、②項で言う「教育・トレーニングの場に持続可能性の概念を取り入れる」ことです。
- なお、GAP (Global Action Program) は、ユネスコが定めた2015年から向こう5年間のE S D推進の基本行動計画なのです。もちろん、ユネスコに協力する日本は、この行

動計画を全面的に国内にも摘要することとしています。

- ① 政策的支援
- ② 教育・トレーニングの場に持続可能性の概念を取り入れる（機関包括型アプローチ）
- ③ 教員やトレーナーの能力向上
- ④ 青少年の役割支援と動員
- ⑤ 地域コミュニティや地方自治体にコミュニティ・レベルのESDプログラム策定を推奨

### 第10課程

「持続可能性の概念を取り入れる」とは、具体的には、どのようなことでしょうか。

- ① 持続可能性の概念を取り入れるとは、ESD推進の最も重要な実践です。
- ② ESD誕生の背景には、人類が今の経済活動を続けていけば、未来社会の持続的な発展は期待できないとの考え方があります。
- ③ ESDでは、未来社会の在り方を決める考え方（価値判断）や行動の仕方が、未来社会を平和で持続可能な社会にすることになるのかを点検し、従来の価値観や行動のパターンの転換（パラダイムシフト）を求めています。
- ④ 具体的には、平和で持続可能な豊かな未来社会を創るための新しい社会制度や法律を考える際に、「それは、未来社会を真に平和で持続可能なものにできますか」と問い、その実現の方向に合った解を導き出すこととなります。

### 第11課程

ESDを推進し、平和で持続可能な社会を創るために、国際社会には、具体的な目標が提示されているのでしょうか。

- すばらしい目標が提示されています。ユネスコは、国連ESDの10年の国際実施計画（2005）を策定した際、持続可能な社会の具体的な目標として、国連が決議した「ミレニアム開発目標（MDGs=*Millennium Development Goals*）」を採用していました。
- MDGsが、2000年から2015年までの目標であったため、国連はその後継目標として、今年9月に、2030年を目標とする「持続可能な開発目標（SDGs=*Sustainable Development Goals*）」17項目を決定します。
- ユネスコは、この17項目を持続可能な社会の具体的な目標に採用することとしています。予定される17項目は、次のとおりです。（公益財団法人・地球環境戦略研究機関（IGES）が発表（2014年9月）した仮訳。

<http://www.csonj.org/mdgsnews/owg-sdgs-japanese-translation> 2015年7月8日閲覧

覧。)

- ESDの推進拠点であるすべてのユネスコスクールは、ここに掲げられた17目標を踏まえてESDの学校目標を設定し直し、カリキュラム、学習内容や方法等を再検討することが求められています。

- 目標1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
- 目標2 飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
- 目標3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
- 目標4 すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
- 目標5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女子のエンパワーメントを行う。
- 目標6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
- 目標7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する。
- 目標8 包括的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用とディーセント・ワーク（適切な雇用）を促進する。
- 目標9 復元力のあるインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業の促進、およびイノベーションの拡大を図る。
- 目標10 各国内および各国間の不平等を是正する。
- 目標11 包括的で安全かつ復元力をもつ持続可能な都市および人間居住を実現する。
- 目標12 持続可能な生産消費形態を確保する。
- 目標13 気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
- 目標14 持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する。
- 目標15 陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・防止および生物多様性の損失の阻止を促進する。
- 目標16 持続可能な開発のための平和で包括的な社会の促進、すべての人々への司法へのアクセス提供、およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度の構築を図る。
- 目標17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

(注：仮訳では、目標9と11で、「レジリエント」というカタカナが使われていますが、中山は、「復元力のある」(目標9)と「復元力をもつ」(目標11)と訂正しました。)

## 第12課程

「持続可能な社会の構築」は、いつになれば、完成段階に至るのでしょうか。

- ① 持続可能な社会とは、第11課程の17の目標が、すべて達成された時点で、実現するといえるでしょう。しかし、現実には、技術革新により世界は時代とともにダイナミックに変化するので、2030年には、新たな持続可能な社会の目標が掲げられるはずで
- ② つまり、われわれが理想とする「持続可能な社会」の姿は、人類の進歩にしたがって変化するもので、実は、完全なる実現は、難しいものといえます。ということは、「持続可能な社会」の概念は、「民主主義」の在り方にも完成形がないのと同じレベルの大きな概念であることに気づくことでしょう。
- ③ ESD（持続可能な開発のための教育）とその推進拠点としてのユネスコスクールの教育活動は、人類社会の理想形を求める終わりのない旅といえます。ユネスコスクールで、ESDを学ぶこと、また、社会人として、いろいろな場面でESDの目標や進め方を学ぶこと。これらの学びの活動を通して、ユネスコが目指す「平和で持続可能な社会の構築」という理想を、ユネスコ活動は求め続けているといえるのではないのでしょうか。

## 第13課程

ESDやユネスコスクールの推進に関わる代表的な公的機関の役割分担は、どのようになっているのでしょうか。

- ESDやユネスコスクールは、国際機関のユネスコが主導する世界的な教育革新運動を通じて、平和で持続可能な社会の創造というユネスコの理想を実現しようとする一大プロジェクトです。その推進に当たって、国内外の多くの公的機関が相互に連携しながら、目標である「平和で持続可能な社会の構築」に向けて努力を続けています。そこで関連する公的機関の役割分担について説明したいと思います。なお、活動内容について詳しく知りたい方は、各機関のウェブサイトを参照してください。
- ① （国際機関）ユネスコ： 国連ESDの10年（2005～14年）の主導機関となって以降、その活動目標を「平和で持続可能な社会の構築」に改め、組織を挙げてESDの推進について、世界の旗振り役を努めています。今や、ESDやユネスコスクールの発展に関して、195の加盟国政府に対して政策提言を行う世界の中心機関です。日本は、長い間、ユネスコ財政を支える拠出金で、アメリカに次いで2位の位置にあり、ユネスコ全体、とりわけESDの推進については、強い発言力を有すると共に、指導力を発揮しています。
  - ② （国際機関）ユネスコバンコク事務所＝ユネスコ・アジア太平洋地域教育局： アジア太平洋地域の48の加盟国を統括し、アジア太平洋地域でのユネスコ活動に、国際会議やワークショップの開催を通じて指導的や役割果たしています。ESDに関して2005

年には、『アジア太平洋地域 ESD 国際実施計画』を策定しています。

- ③ (政府) 日本ユネスコ国内委員会： ユネスコの事業に協力するために「ユネスコ活動に関する法律 (1953 年制定)」に基づき、文部科学省に設置されたもので、日本におけるユネスコ活動を統括しています。国内の ESD やユネスコスクールの推進に関する政策決定機関です。同委員会総長 (文科省国際統括官) 及び同委員会会長 (民間人) は、2 年に一度開催されるユネスコ総会に出席し、世界のユネスコ活動の政策決定に参画しています。
- ④ (行政) 県市教育委員会： 文部科学省・日本ユネスコ国内委員会の通知・指導を受けて、学校教育と生涯学習分野で、ESD やユネスコスクールの普及・実践について指導しています。なお、広島県、広島市、廿日市市などの教育委員会は、ESD 担当者を配置して、管内学校での ESD やユネスコスクールの普及に努めています。
- ⑤ (公益社団法人) 日本ユネスコ協会連盟 (日ユ協連)： 全国に 280 以上ある地域ユネスコ協会などを統括し、ESD やユネスコスクールの普及について指導しています。地域ユネスコ協会の会員になると、会費の一部が日ユ協連へ送られ、定期広報誌『ユネスコ』が届きます。この冊子は、日本における各地のユネスコ活動を理解するのに大変役立ちます。
- ⑥ (公益財団法人) ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)： アジアと太平洋地域の教育と文化の振興により、持続可能な社会の構築を目指しています。特に、アジア・太平洋諸地域を対象とする識字教材の開発で、その名が知られています。また、文科省の委託を受けて、ユネスコスクール事務局とユネスコスクール公式ウェブサイトの運営を行っています。
- ⑦ (市民団体) 地域ユネスコ協会： 全国に 280 を超える地域ユネスコ協会が、地域に根差したユネスコの理想を実現するための多彩なユネスコ活動を展開しています。また、地方別ユネスコ活動研究大会を毎年開催し、会員相互の親睦と活動の交流を行っています。なお、中国地方は、中国 5 県が持ち回りで開催しています。2013 年度は、広島市で、また、2014 年度は岡山県津山市で、中国ブロックユネスコ活動研究大会が開催されました。
- ⑧ (大学) ASPUnivNet (ユネスコスクール大学間支援ネットワーク)： 2009 年に、ESD の推進拠点としてのユネスコスクールの質の向上を支援することを目標に設立され、現在は、全国 16 大学が加盟しています。中国地方では、岡山大学と広島大学が加盟しています。主な役割は、ユネスコスクールの認定申請書の作成に当たっての支援とユネスコスクールの質的向上を目指した教職員の研修支援を行っています。また、広島大学は、2015 年度に中に、広島県 ESD コンソーシアムの設立に向けた取り組みを進めています。
- ⑨ (学校) ユネスコスクール： パリのユネスコ本部から認定証を受けた学校のみにも与えられる荣誉ある称号です。現在、世界には約 1 万校、国内には、939 校 (2015 年 6

月現在)、県内には46校(2015年3月)の認定校があります。ユネスコスクールは、ユネスコの理想を実現する学校と定義されますが、同時に、ユネスコが、その学校の教育活動が世界トップ水準にあることを認定したことになります。

- ⑩ (県内地域ユネスコ協会の連絡協議会) 広島県ユネスコ連絡協議会: 県内の6つの地域ユネスコ協会(広島、宮島、東広島、尾道、因島、府中)の連絡調整団体として、1972年に設立されました。また、2013年には、同協議会内に、「広島ESD・ユネスコスクール研究会」を設立し、年4~5回の研究会を、市民開放型で実施しています。
- ⑪ (県内ユネスコスクールの連絡協議会) 広島県ユネスコスクール連絡協議会: 県内のユネスコスクールの質的向上を目指して、2011年3月に21校で設立されました。2015年3月現在、加盟校は、46校に増加しています。なお、年1回の研修会を公開で開催し、講演やESDの優れた実践校による発表会を開催しています。

(完)

さらなる学びの参考資料として、次の2点があります。

● 「ESD」について、もっと体系的に学びたい方は、国立教育政策研究所 教育課程研究センターが公刊したESDリーフレット「持続可能な開発のための教育(ESD)はこれからの世界の合い言葉 みんなで取り組むESD! : 持続可能な社会づくりを目指した取組に向けて」をお勧めします。次のインターネット検索で閲覧できます。

- ① 「国立教育政策研究所 教育課程研究センター」を[検索](#)し、ページを開きます。
- ② 同センターのタイトルの下にある青色の「研究成果」をクリックします。
- ③ 研究成果一覧の22行目「ESDリーフレット」をクリックすると、リーフレットの全文が現れます。

● 「ユネスコスクール」について、もっと体系的に学びたい方は、日本ユネスコ国内委員会が発行した次のガイドブックをお勧めします。次のインターネット検索で閲覧できます。

- ① 「ユネスコスクール公式ウェブサイト」を[検索](#)し、ページを開きます。
- ② 「ユネスコスクールとは」をクリックします。
- ③ 左端の下の方に、最近の出版物の案内広告が数冊あります。
- ④ それらの書籍の中から、『ユネスコスクールと持続可能な開発のための教育(ESD)』(2014年9月改訂)の表紙をクリックします。
- ⑤ この書籍は、現在、日本で最も公式なESDとユネスコスクールに関するガイドブックと言えます。

●E S Dは、問いかけます。  
あなたの考え方や行動は  
次世代の世界を  
今より平和で持続可能な社会にすることに  
役立つと思われますか？  
(E S Dの原則より編著者編集)

●ユネスコスクールは、E S Dの推進拠点です。  
(文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会)

●ユネスコスクールは、ユネスコの理想を実現する学校です。  
(ユネスコスクール公式ホームページ)

●この冊子の内容に関するご質問やご意見は、広島ユネスコ協会のホームページにある「E S D・ユネスコスクールに関するお問い合わせ窓口」から、お願いします。

■編集協力 広島県ユネスコ連絡協議会内  
▽E S D・ユネスコスクール委員会 河原富夫 (委員長)  
▽広島E S D・ユネスコスクール研究会 和田文雄 (代表)  
湯浅清治 (副代表)  
卜部匡司 (事務局長)

### E S Dとユネスコスクール ～全 13 課程の Q & A～

発行日 2015年(平成27年)9月15日  
制作 亀井章(会長)  
編著 中山修一(副会長)  
発行 広島ユネスコ協会  
〒730-0036 広島市中区袋町6番36号  
広島市まちづくり市民交流プラザ MB89号気付  
印刷 有限会社 創元社